

月報だより

月報だよりの原稿は毎月20日締切、翌月号発行の「天文月報」に掲載致します。校正をお願いしておりますので、締切日よりなるべく早めにお申し込み下さい。e-mailでgpjimu@tenmon.or.jp宛、必ずFax: 0422-31-5487へも原稿をお送り下さい。

人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目にしたがってご投稿下さい。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員 (ポスト・人数など), 2. (1) 所属部門・所属講座, (2) 勤務地, 3. 専門分野, 4. 職務内容・担当科目, 5. (1) 着任時期, (2) 任期, 6. 応募資格, 7. 提出書類, 8. 応募締切・受付期間, 9. (1) 提出先, (2) 問合せ先, 10. 応募上の注意, 11. その他 (待遇など)

東京工業大学大学院理工学研究科

1. 教授 1名
2. 東京工業大学理工学研究科広域理学大講座 (共通講座)
3. 広い意味での理学分野 (理論・実験は問わない)
広域理学大講座は大学院重点化に伴って本年4月に設置が認められた共通講座であり、この講座を中核として、理学系5専攻の下に「理学研究流動機構」が作られている。本機構は人的、学術的交流を通して理学系専攻のアクティビティを維持することがその主たる目的である。現在、本機構は国内・国外客員3ポスト、任期付き本務1ポストからなっている。
今回公募 (任期付き本務ポスト) する教授は、この機構にあって関連専攻 (数学専攻, 基礎物理学専攻, 物性物理学専攻, 化学専攻, 地球惑星科学専攻のうちのいずれかの専攻) の教官, 大学院生と協力しつつ (あるいは独立に), 最先端の理学研究を活発に展開することが求められている。
5. (1) 決定後なるべく早い時期, (2) 5年
7. ○履歴書○業績リスト (査読誌, 解説文, 研究集会報告毎に記載) ○主要論文別刷 ○これまでの研究概要 (2,000字程度) ○本学5年間における研究計画 (2,000字程度) ○応募者に関する所見を伺うことのできる方 (1~2名) の氏名及び連絡先

8. 1998年9月14日(月)必着
9. (1) 〒152-8551 目黒区大岡山 2-12-1
東京工業大学理学部庶務掛 中澤 清
(2) 数学分野: 志賀徳造
Tel: 03-5734-2457
e-mail: shiga@ap.titech.ac.jp
素核宇宙物理学分野: 細谷暁夫
Tel: 03-5734-2463
e-mail: ahosoya@th.phys.titech.ac.jp
物性物理学分野: 南 不二雄
Tel: 03-5734-2447
e-mail: minami@ap.titech.ac.jp
化学分野: 榎 敏明
Tel: 03-5734-2242
e-mail: tenoki@chem.titech.ac.jp
地球惑星科学分野: 中澤 清
Tel: 03-5734-2622
e-mail: nakazawa@geo.titech.ac.jp
10. 封筒に「広域理学大講座教授応募書類」と朱書し、簡易書留で送付
11. 関連専攻の大学院担当教官として、大学院生を研究指導できる。なお、希望により、学部教育並びに学内運営などの義務は免除される。

理化学研究所主任研究員公募

1. 主任研究員
2. 和光本所 (埼玉県和光市)
3. 観測的天体物理学
4. 研究室を主宰する他、主任研究員会議の活動を通して理化学研究所の研究運営に参画していただきます。
5. (1) 1999年4月1日以降なるべく早い時期
○勤務形態: 常勤を前提とする。60才定年。
6. 独創的な観測手段を用いて、次代の天体物理学を開拓できる方。大学院において研究指導を担当する教授に相当する実力と研究実績を持つ必要がある。国籍は問わないが、日本語が堪能であること。
7. (1) 履歴書, (2) 研究業績目録 (その中の主要論文5編以内に丸印をつけ、別刷各1部を添付), (3) 従来の研究概要と採用された場合の研究計画 (合わせてA4用紙5枚程度), (4) 応募者本人の研究を評価できる方3名の氏名, 連絡先
8. 1998年10月1日必着
9. (1) (2)
理化学研究所計算科学研究室 戎崎俊一
〒351-0198 埼玉県和光市広沢 2-1
電話: 048-467-9414

FAX:048-467-4078

e-mail: ebisu@postman.riken.go.jp

11. 待遇：理化学研究所の規定による（部長級）。
○本公募および当研究所の研究活動については、WWW ホームページに掲載しています。
(<http://www.riken.go.jp>)

人事公募結果

1. 掲載号
2. 結果（前所属）
3. 着任時期

京都大学大学院理学研究科附属天文台教官助手

1. 1998年4月号
2. 上野 悟

研究助成

第1回大学婦人協会守田科学研究奨励賞 受賞候補者募集要項

趣 旨：本賞は化学教育者故守田純子氏から女性科学研究者育成のためにと遺贈された資金を基にして、自然科学を専門とする女性科学者の研究を奨励し、科学の発展に貢献する人材を育成することを目的として新しく設けられたものです。

対 象：自然科学分野において、優れた研究成果をあげており、将来自然科学の発展に貢献することが期待される40歳未満（応募締切日現在）の女性科学者を対象としています。

授賞件数：年2件以内

賞状および奨励金30万円を贈呈します。

提出書類：1. 推薦状, 2. 略歴, 3. 研究業績リスト, 主要な論文別刷, 4. 主な研究題目とその概要および今後の展望と抱負等（A4版1～2頁程度）

応募締切日：平成10年11月30日(月)(当日消印有効)

書類送付先および連絡先：

社団法人大学婦人協会

〒160-0017 東京都新宿区左門町11番地6-101

Tel: 03-3358-2882 Fax: 03-3358-2889

研究会・集会案内

第8回一般相対論と重力研究会

開催日時：1998年10月19日(月)～22日(木)

開催場所：新潟大学自然科学研究科大会議室

内 容：重力に関する問題は極めて多岐にわたるものとなり、細分化が進んでいる。この研究会では、様々な分野の研究者が広く交流できる場を持つことが目標であり、一般相対論はもちろん様々な拡張理論、古典重力理論から量子重力理論、また数物理的な問題から、実験・観測的な問題まで重力に関する問題を幅広く取り上げる。

講演申込：1998年9月18日(金)必着

連絡先：950-2181 新潟市五十嵐2の町8050

新潟大学理学部物理学教室 大原謙一

電話: 025-264-2281

FAX: 025-264-2282 または 025-263-3961

E-mail: grg@astro.sc.niigata-u.ac.jp

☆講演申込および旅費補助の申込に付いては、上記連絡先に（なるべくE-mailで）お問い合わせ下さい。また、詳細については、

<http://astro.sc.niigata-u.ac.jp/GRG/> もご参照下さい。

しし座流星群全国高校生同時観測会のご案内

1998年のしし座流星群を多くの生徒たちに体験させたい、という思いから、天文教育普及研究会の8名を中心に実行委員会が発足、学会、研究会等の支援も得て、標記観測会の準備中です。今年のしし座流星群は大出現の可能性があるばかりか、特にアジア地域での観測条件はよく、国内でも多数の地点で計数観測されることは学術的にも意義あることと考えられます。理科教育の見地からも、この観測はまさに活きた教材となり得ます。そこで、我々は、全国に呼びかけ下記の同時観測会を実施することにしました。

■名 称：しし座流星群全国高校生同時観測会

■共 催：天文教育普及研究会、日本天文学会、日本惑星科学会

■後 援：国立天文台、天文学振興財団、日本理科教育学会、日本地学教育学会、日本流星研究会

■実施日：1998年11月17日(火)夕～18日(水)朝

■対 象：原則として、高校、高専のクラブ、もしくはは指導者のいる高校生のグループを対象とする。参加登録は、9月1日(火)～10月31日(土)。

■登録方法、観測方法等の詳細は、ホームページ <http://www/leonids.net/> をご覧下さい。お問い合わせは、「しし座流星群全国高校生同時観測会」実行委員会まで (e-mail:leo98@leonids.net)。

第 11 回理論懇シンポジウム 「天文学の境界領域を探る」

主 催：理論天文学懇談会
日 時：1999年1月6日(水)～8日(金)
場 所：京都大学基礎物理学研究所 (予定)
内 容：天文学とつながりが深い分野において研究をされている研究者のレビュー等を通して、天文学と共通する学問的概念を丁寧に掘り起こし、新たな理論天文学研究の方向性を探る。具体的には、素粒子物理学、レーザー核融合、複雑系、惑星科学等のレビューを予定。また、天文各分野における一般講演・ポスター発表を募集する。
定 員：120名 参加費無料
講 演：参加申込締切：10月12日(月)
連絡先：京都大学大学院理学研究科 嶺重 慎
電話 075-753-3891 FAX 075-753-3897
E-mail: minesige@kusastro.kyoto-u.ac.jp

会 務 案 内

正会員各位

社団法人日本天文学会 理事長 奥田治之

1998年度秋季総会開催のお知らせ
一同封の返信用葉書で9月29日(火)までに
到着するようご投票を！

下記の通り1998年度秋季総会を開催いたしますので、ご出席下さるようご案内申し上げます。

総会は本会の最高決定機関で、総会成立には正会員の5分の1以上の出席が必要です(定款第42条)。欠席される場合には、下記の議案および説明をよくお読みの上、次の(1)または(2)のどちらかの対応して下さい。いずれの場合も、総会出席とみなされます。

- (1) 天文月報9月号にとじ込みの総会返信用葉書(以下「葉書」と呼ぶ)を用いて賛否の意志を表明する。
- (2) 他の出席予定者の正会員に表決権の行使を委任する。「葉書」は、9月29日(火)までに天文学会事務室に到着するように投函して下さい。「葉書」には切手を貼る必要はありません。「投票および委任状の書き方」を参照して下さい。

「投票および委任状の書き方」

総会に出席できない会員は、「葉書」で議案に対する

賛否の意志表示をするか、委任状を提出して下さい。(委任状はとくに指定の用紙はありません。)

賛否の意志表示をされる方は、第1号及び第2号の議案について「賛成」、「反対」のいずれかを○で囲んで下さい。賛成・反対以外にご意見があれば、所定の欄に記入し、書ききれないときは別紙に書いて下さい。又第3号及び第4号議案については、

1. 「全員承認」
2. 「一人でも不承認の人がいましたら名前をお書き下さい。(記入された人以外は承認とみなします)のいずれかを○で囲み(2,の場合は名前を記入の上),事務室宛にお送り下さい。

なお、次の投票は無効となり、出席会員数に数えません。

- 1) 所定の「葉書」を用いないもの。
- 2) 会員番号、住所(または勤務先)の両方を欠くもの。
- 3) 氏名を自署していないもの。
- 4) 投票権のない者からの投票。
- 5) 2重投票

次の票は出席会員数には入れるが、棄権票として扱います。

- 1) 賛成、反対の意思表示をせず、意見だけを書いた票。
- 2) 白票。

委任状については、次の場合に無効となります。

- 1) 委任正会員の氏名、自署、捺印のいずれかを欠くもの。
- 2) 委任正会員の会員番号、住所(または勤務先)の両方を欠くもの。
- 3) 被委任正会員の氏名を欠くもの。
- 4) 被委任正会員が総会に出席しない場合。
- 5) 被委任正会員として、単に役職名の“会長”または“議長”と書かれたもの。

1998年度秋季総会議題

日 時：1998年10月2日(金)17時00分～18時30分
場 所：山形大学教養教育2号館222

議 案

- 第1号議案：1999年度事業計画(案)……………資料1
第2号議案：1999年度収支予算(案)……………資料2
第3号議案：役員(理事・監事)(案)……………資料3
第4号議案：評議員選挙管理委員会委員(案)…資料4
議案の内容は以下の資料をご参照下さい。

【資料1】

社団法人日本天文学会事業計画書(案)

1999年度(1999年1月1日～1999年12月31日)

1. 出版物の刊行
- 1) 欧文研究報告

- 第51巻第1号～第51巻第6号，隔月刊，A4版，発行部数1750，年間1000ページ，電子化出版を予定，別冊総索引（250頁）
- 2) 天文月報

第92巻第1号～第92巻第12号，月刊，B5版，発行部数3400，毎号52ページを予定，DTP採用。
 - 3) 年会講演予稿集

春・秋季年会の講演予稿集2巻，発行部数800を予定。
 2. 年会・総会の開催
 - 1) 春季年會を1999年3月25日(木)から27日(土)にわたって，京都大学にて開催する。年會期間中に通常總會を開催する。又，公開講演會を3月28日(日)に予定。
 - 2) 秋季年會を1999年10月7日(木)から9日(土)にわたって，九州大学にて開催の予定。年會期間中に通常總會を開催する。又，公開講演會を10月10日(日)に予定。
 3. 評議員會，理事会
 - 1) 評議員會

1月中旬，7月上旬，及び春・秋季年會會場にて開催予定。
 - 2) 理事会

1月上旬，7月上旬，及び春・秋季年會會場にて開催予定。
 4. 各賞の授与
 - 1) 天体発見賞・天体発見功勞賞

新天体の発見者に対して天体発見賞・天体発見功勞賞を授与する。
 - 2) 日本天文学會研究奨励賞

特に顕著な研究成果を挙げた若手研究者を選定し研究奨励賞を授与する。
 - 3) 日本天文学會林忠四郎賞

天文学の分野において独創的で，かつ分野に寄与するところの大きい研究に対して林忠四郎賞を授与する。
 - 4) 日本天文学會欧文報告論文賞

日本天文学會欧文報告に掲載された論文の中から，特に優れた論文の著者に対して欧文報告論文賞を授与する。
 5. 助成金
 - 1) 内地留學奨学金受給者の募集（主にアマチュアを対象）をし，10月に選考し奨学金を支給する。
 - 2) 早川幸男基金により，若手天文研究者の海外に於ける観測，国際共同研究，もしくは研究発表のための渡航費の援助を行う。
 - 3) IAU京都總會記念基金より，わが国で開かれる国際研究集會の開催にあたり，會議出席の費用の捻出の困難な国からの参加者の参加費の援助を行う。
 - 4) 賛助會員會費による学生の年會参加旅費の援助を行う。
 6. 委員會及び委員
 - 1) 欧文研究報告編集顧問

池内 了，稻垣省五，尾崎洋二，木下 宙，桜井隆，佐藤勝彦，佐藤文隆，祖父江義明，田原博人，長瀬文昭
 - 2) 欧文研究報告編集委員會

有本信雄（編集長），大橋隆哉，柴橋博資，中井直正，中村 士，蜂巢 泉，花岡庸一郎，嶺重慎，山田 亨
 - 3) 天文月報編集委員會

上野宗孝（委員長），大橋正健，小野智子，斉藤芳隆，田村元秀，土橋一仁，内藤統也，和田桂一
 - 4) 年會実行委員會

吉川 真（委員長），梅本智文，小山泰弘，土居守，山岡 均
 - 5) 教育委員會

沢 武文（委員長），未定
 - 6) 評議員選舉管理委員會

川村靜兒（委員長），犬塚修一郎，千葉柁司，辻本拓司，濱部 勝
 - 7) 林忠四郎賞選考委員會（欧文報告論文賞を含む）

奥田治之（委員長），尾崎洋二（ex-officio），海部宣男，杉本大一郎，富田憲二，山下広順
 - 8) 研究奨励賞選考委員會

中井直正（委員長），大橋隆哉，林 正彦，嶺重慎，蜂巢 泉
 - 9) 天体発見賞選考委員會

渡辺潤一（委員長），西城恵一，中野主一，中村士，山岡 均
 - 10) 内地留學奨學生選考委員會

黒田武彦（委員長），綾仁一哉，加藤太一，中村泰久，鈴木文二
 - 11) 早川幸夫基金選考委員會（IAU京都總會記念基金選考委員會を含む）

大橋隆哉（委員長），須藤 靖，長谷川哲夫，福江 純，吉田重臣
 - 12) ネットワーク委員會

田中培生（委員長），鈴木知治
 - 13) 天文教材委員會

半田利弘（委員長），石田俊人，戎崎俊一，太田耕司，福江 純
 7. 後援事業
 - 1) 毎年秋に行われる国立天文台の一般公開を後援する。
 - 2) 他の學術団体の天文關係諸企画に対して可能な限り後援する。

【資料 2】

1999 年度収支予算書 (案)
(1999 年 1 月 1 日～1999 年 12 月 31 日)

【一般会計】

収入の部 (単位：円)

勘定科目 大・中・小科目	予算額	前年度 予算額
基本財産運用収入	90,000	70,000
基本財産利息収入	90,000	70,000
会費収入	33,630,000	33,360,000
正会員会費収入	18,720,000	16,070,000
学生会員会費収入	3,120,000	4,610,000
準会員会費収入	11,360,000	12,150,000
団体会員会費収入	430,000	530,000
事業収入	15,620,000	23,800,000
欧文研究報告発行事業収入	5,500,000	13,450,000
購読料	0	5,040,000
掲載料	4,200,000	6,110,000
別刷代	1,300,000	2,300,000
天文月報発行事業収入	4,760,000	5,000,000
購読料	840,000	1,050,000
別刷代	520,000	350,000
広告料	3,400,000	3,600,000
年会事業収入	5,360,000	5,350,000
予稿集頒布収入	2,000,000	1,900,000
参加費	3,160,000	3,000,000
雑収入	200,000	450,000
補助金等収入	7,700,000	5,300,000
文部省刊行補助金収入	6,900,000	4,400,000
公開講演会補助金収入	800,000	900,000
寄付金収入	10,000	50,000
寄付金収入	10,000	50,000
印税収入	1,900,000	2,600,000
星座早見印税収入	1,700,000	2,000,000
その他の印税収入	200,000	600,000
雑収入	950,000	1,280,000
受取利息	50,000	80,000
特別企画収入	100,000	300,000
その他の収入	800,000	900,000
繰入金収入	0	573,612
消費税繰入	0	573,612
当期収入合計 (A)	59,900,000	67,033,612
前期繰越収支差額	20,215,789	27,032,177
収入合計 (B)	80,115,789	94,065,789

支出の部 (単位：円)

勘定科目 大・中・小科目	予算額	前年度 予算額
事業費	46,500,000	48,540,000
欧文研究報告発行事業費	19,300,000	22,760,000
直接出版費	9,800,000	15,420,000
別刷印刷費	0	920,000
人謝金	6,300,000	3,800,000
送料運搬費	0	770,000
消耗品費	650,000	1,600,000
雑費	100,000	200,000
別冊総索引	50,000	50,000
天文月報発行事業費	2,400,000	0
直接出版費	19,270,000	18,380,000
別刷印刷費	11,400,000	10,700,000
人謝金	420,000	380,000
送料運搬費	1,030,000	1,050,000
消耗品費	2,690,000	2,470,000
雑費	2,820,000	3,000,000
年会事業費	560,000	560,000
予稿集印刷費	350,000	220,000
謝送金	7,930,000	7,400,000
送料運搬費	2,400,000	2,600,000
会場費	1,100,000	1,200,000
消耗品費	1,200,000	600,000
人謝金	1,200,000	1,200,000
雑費	600,000	500,000
管理費	1,030,000	1,000,000
人件費	400,000	300,000
謝金	7,900,000	8,300,000
負担金	300,000	300,000
租税公課	200,000	300,000
旅費交通費	170,000	170,000
送付通信費	0	1,700,000
什器備品費	1,300,000	1,300,000
印刷製本料	2,300,000	2,300,000
光熱水借料	800,000	1,500,000
賃借料	800,000	1,000,000
保険料	800,000	1,800,000
諸手数料	250,000	250,000
修繕費	1,500,000	1,500,000
書籍購入費	100,000	100,000
特別企画調整費	200,000	200,000
雑費	500,000	500,000
退職金支出	500,000	600,000
内地へ繰入金支出	150,000	110,000
有価証券購入支出	250,000	250,000
特定預金支出	250,000	0
退職給与引当預金支出	4,310,000	250,000
減価償却引当預金支出	1,200,000	1,200,000
予備費	690,000	1,680,000
当期支出合計 (C)	190,000	180,000
当期収支差額 (A-C)	500,000	1,500,000
次期繰越収支差額 (B-C)	9,145,789	20,215,789
当期収支差額 (A-C)	80,115,789	94,065,789
次期繰越収支差額 (B-C)	△20,215,789	△27,032,177
	0	0

※

収支予算書(案)

(1999年1月1日～1999年12月31日)

【特別会計】

(単位：円)

会計種目	科目	予算額	前年度 予算額	
		収入の部		
学術交流費	賛助会員会費収入	1,800,000	2,000,000	
	受取利息	5,000	1,500	
	当期収入合計(A)	1,805,000	2,001,500	
	前期繰越収支差額	1,606,837	1,608,337	
	収入合計(B)	3,411,837	3,609,837	
	支出の部			
	学術交流費	2,000,000	2,000,000	
	雑費	3,000	3,000	
	当期支出合計(C)	2,003,000	2,003,000	
	当期収支差額(A)-(C)	△198,000	△1,500	
次期繰越収支差額(B)-(C)	1,408,837	1,606,837		
内地留学 奨学金	収入の部			
	利息収入	15,000	48,000	
	一般より繰入金収入	4,310,000	250,000	
	当期収入合計(A)	4,325,000	298,000	
	前期繰越収支差額	91,925	46,925	
	収入合計(B)	4,416,925	344,925	
	支出の部			
	奨学金支出	250,000	250,000	
	雑費	3,000	3,000	
	旅費補助支出	50,000	0	
当期支出合計(C)	303,000	253,000		
当期収支差額(A)-(C)	4,022,000	45,000		
次期繰越収支差額(B)-(C)	4,113,925	91,925		
研究奨励賞	収入の部			
	寄付金収入	100,000	200,000	
	受取利息	20,000	2,000	
	当期収入合計(A)	120,000	202,000	
	前期繰越収支差額	5,501,454	5,401,454	
	収入合計(B)	5,621,454	5,603,454	
	支出の部			
	研究奨励賞支出	100,000	100,000	
	雑費	0	2,000	
	旅費補助支出	50,000	0	
当期支出合計(C)	150,000	102,000		
当期収支差額(A)-(C)	△30,000	100,000		
次期繰越収支差額(B)-(C)	5,471,454	5,501,454		

※

(単位：円)

会計種目	科目	予算額	前年度 予算額	
		収入の部		
早川幸男基金	寄付金収入	500,000	500,000	
	受取利息	65,000	130,000	
	当期収入合計(A)	565,000	630,000	
	前期繰越収支差額	18,378,987	19,758,987	
	収入合計(B)	18,943,987	20,388,987	
	支出の部			
	研究補助支出	2,000,000	2,000,000	
	雑費	10,000	10,000	
	当期支出合計(C)	2,010,000	2,010,000	
	当期収支差額(A)-(C)	△1,445,000	△1,380,000	
次期繰越収支差額(B)-(C)	16,933,987	18,378,987		
林忠四郎賞	収入の部			
	受取利息	60,000	100,000	
	当期収入合計(A)	60,000	100,000	
	前期繰越収支差額	16,435,149	16,785,149	
	収入合計(B)	16,495,149	16,885,149	
	支出の部			
	林賞支出	200,000	400,000	
	雑費	20,000	50,000	
	旅費補助支出	100,000	0	
	当期支出合計(C)	320,000	450,000	
当期収支差額(A)-(C)	△260,000	△350,000		
次期繰越収支差額(B)-(C)	16,175,149	16,435,149		
IAU記念基金	収入の部			
	受取利息	20,000	0	
	当期収入合計(A)	20,000	0	
	前期繰越収支差額	6,432,752	0	
	収入合計(B)	6,452,752	0	
	支出の部			
	雑費	100,000	0	
	旅費補助支出	1,000,000	0	
	当期支出合計(C)	1,100,000	0	
	当期収支差額(A)-(C)	△1,080,000	0	
次期繰越収支差額(B)-(C)	5,352,752	0		

【資料3】

《参考資料》

新役員(1999年1月1日～2000年12月31日)(案)

1999年度学会予算案について

理事長：尾崎洋二
 副理事長：家 正則，小山勝二
 庶務理事：大石雅壽，柴田一成
 会計理事：立松健一，紀伊恒男
 PASJ理事：有本信雄
 月報理事：上野宗孝
 年会理事：吉川 真
 教育理事：沢 武文
 年会開催地理事：大谷 浩(京都)，山岡 均(九州)，
 牧島一夫(東京)，橋本 修(群馬)

監 事：唐牛 宏，杉本大一郎

【資料4】

評議員選挙管理委員会委員

委員長：川村静児
 委 員：犬塚修一郎，千葉証司，辻本拓司，濱部 勝

(1) 欧文研究報告の電子化について

新しい情報伝達媒体の出現に伴い、学術雑誌の出版を取り巻く状況が大きく変わりつつあります。とりわけ過去二年間における変化は目覚ましく、今起きている事態はまさに「雑誌の電子革命」と呼ぶべきものです。天文学の世界でも、World-Wide Webが研究情報の伝達手段として活用されるようになってきていることは、皆様ご承知の事と思います。このような出版界の流れを踏まえて、欧文研究報告編集部では欧文研究報告の電子出版の準備を平成9年度の初めから進めてまいりましたが、このたび編集体制や経費、電子化の具体策について検討を終了し、平成11年度から、従来どおりの印刷版の出版に加えて新たに電子版の出版を開始できるはこびとなりました。また、著者や査読者、編集者とのやりとりを迅速にするために、論文の電子投稿による受付も同時に始めます。さらに、論文の投稿を奨励する意味を込めて、著者が負担する掲載料を電子化の開始にあわせて「二年間」半額に値下げします。欧文研究報告は投稿論文数が減少しつつあって危機的状況にありますが、これによってこれまで以上に魅力ある学術雑誌となると信じています。天文学会の会員の皆様のご支援をお願いする次第です。

有本信雄(欧文研究報告編集長)

(2) 基本財産、内地留学奨学金基金の管理変更

内地留学奨学金は設立当初、基金431万円の利子によって奨学資金を賄う方針でした。しかし、物価水準に合わせた奨学金の増額と低利子化により、利子のみによる奨学資金(最近では年間25万円)の捻出は困難となりました。一方、この基金は学会の基本財産(基本金、総額1,231万円)の一部として管理されていたため、法的にこの基金を取り崩せません。このため、奨学資金をこの特別会計枠で確保することができず、近年は奨学資金を確保するため一般会計から内地留学特別会計に25万円を毎年繰り入れて奨学金運営をしておりました。

つまり、内地留学奨学金は本来は独立採算であるべき特別会計の一つであるにも関わらず、実態は一般会計からの資金の補充で運営していました。また、基金が基本財産であったため、収支予算・収支計算書には実体が現れず、一般の学会員には資金運営が分かり難いものとなっておりました。基本金が複数の会計にわたっていることも財産管理上の問題でした。この資金運営の改革は長年の懸案でした。

問題は基金が基本財産として管理されていることにあ

ります。この度、詳しく調査を行なった結果、「法的には、基本財産はその総計が崩されなければその会計管理替えは学会の裁量の範囲であり、管轄省庁の承認等は必要ない」ことが分かりました。したがって、来年度の予算では、

- a) 内地留学奨学金の基金となっていた基本財産 431 万円は一般会計の固定資産の基本金に管理移管する。一方、この基金を補填するため、一般会計から 431 万円を内地留学奨学金の流動資産に繰り入れる。今後この流動資産を基金とする。
- b) 来年度以降は内地留学奨学金は独立会計として運営し、これまで行なってきた一般会計からの運営資金の補充はしない。

との処置をとることとしました。これにより、内地留学奨学金も他の特別会計と会計上同等に独立採算とすることができます。図に現在の一般会計、内地留学奨学金の状況と上で述べた会計処理を模式的にまとめました。

内地留学奨学金会計の立場に立てば、これまで基金を基本財産として管理してきましたが、今後は流動資産として管理することとなる、と考えても良いでしょう。これにより基金の取り崩しも可能となりますので、内地留学奨学金に対して一般会計からの年度毎の補充の必要はなくなります。この会計管理の変更に伴い、奨学金運営の基本方針も見直しが必要です。これは今後の検討課題とさせていただきます。

なお、予算書では基本金のような固定資産の運営については従来通り書かれませんが、基本金の管理会計移管については、1999 年度決算の際に報告します。流動資産の繰り入れは、一般会計予算書・支出の部の『内地へ繰入金支出』および特別会計予算書・内地留学奨学金・収入の部の『一般より繰入金収入』がそれに相当します。また、現在の学会の固定資産については『天文月報』1998 年 3 月号に掲載しました 1997 年度決算書のなかの貸借対照表を参照下さい。

紀伊恒男（会計理事）

	〈来年度の予算処理〉		〈来年度以降〉	
	一般会計	内地留学奨学金	一般会計	内地留学奨学金
流動資産	431 万繰り入れ			基金
	全額移管			奨学金支出
基本財産	800 万	431 万 (基金)	1231 万	0

(収支予算書(案)中の※参照)

編集委員 末松芳法（編集長）、上野宗孝、大橋正健、小谷太郎、辻本拓司、野口邦男、平野尚美、宮坂正大
 平成 10 年 8 月 20 日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
 印刷発行 印刷所 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町 565-12 啓文堂 松本印刷
 定価 700 円（本体 667 円）発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
 TEL: 0422-31-1359（事務室）／0422-31-5488（月報・欧文編集） FAX: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595
 日本天文学会のホームページ <http://www.tenmon.or.jp> 月報編集 e-mail: gpjimu@tenmon.or.jp